

Title	科学技術に関する国民意識調査：新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について
Author(s)	細坪, 護孝; 加納, 圭; 星野, 利彦
Citation	年次学術大会講演要旨集, 36: 660-665
Issue Date	2021-10-30
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/17848
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

科学技術に関する国民意識調査 ー新型コロナウイルス感染症のワクチン接種についてー

○細坪 護孝 (NISTEP), 加納 圭 (滋賀大学), 星野 利彦 (NISTEP)
※hosotubo@nistep.go.jp

1. はじめに

科学技術・学術政策研究所(以下 NISTEP)では、科学技術に関する国民意識データを収集し、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資することを目的として、2009 年度から、「科学技術に関する国民意識調査」を実施している。

本 2021 年度調査(2021 年 6 月及び 7 月調査)は、15 歳から 69 歳までの男女合計 3,000 人にインターネットを使って調査したものである。

2. 調査の概要

本調査は、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資する基礎データの提供を目的として、2009 年度以来、NISTEP が科学技術に関する国民意識を把握するために継続的に実施している。

2.1. 調査対象

インターネット調査会社にモニター回答者として登録している者である。

2.2. 調査期間及び調査方法

2021 年 6 月及び 7 月にインターネットによって実施した。

サンプル数は N=3,000 (2 社×1,500) で、回答者年齢は 15-69 歳、サンプリングの層化として、男女同数、10 代から 60 代まで各年代で同数とした。

2.3. 調査時点

2021 年 6 月 28 日から 7 月 2 日にかけて実施した。

2.4. 調査項目

今般の調査は、特に新型コロナウイルスのワクチン接種を契機とした科学や科学者への信頼感に対する影響を把握することが目的である。

また、回答者には、居住している都道府県、学校での専攻分野、子どもの有無、科学技術に関するニュースや話題への関心の有無などの個人の属性・意識についてもたずねた。

3. 調査結果の概要

本稿では、調査結果のうち、新型コロナウイルスのワクチン接種に関する主な結果について示す。

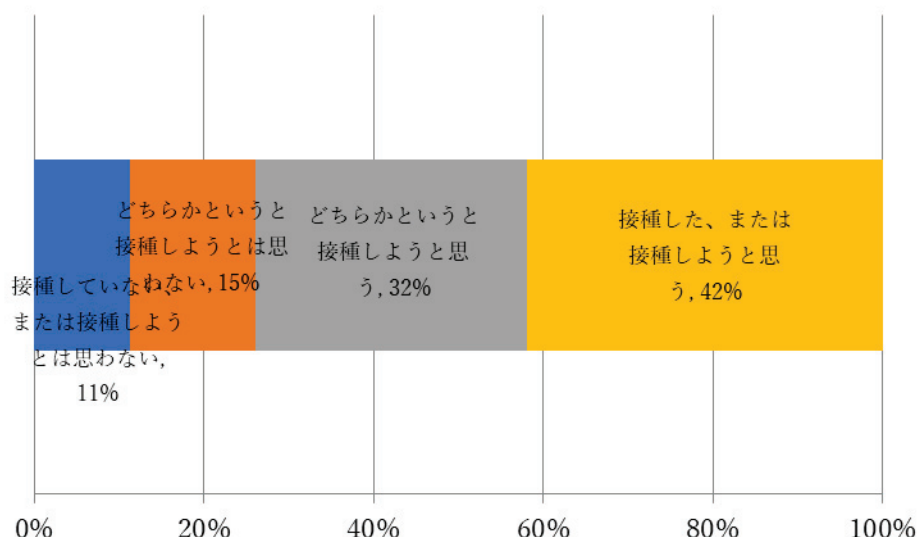
新型コロナウイルスのワクチン接種の希望について、伺ったところ、「現在」(概要図表 1-1)と「今後(継続的に摂取することになった場合)」(概要図表 2-1)で希望に少し差が見られた。「現在」では 74%が(どちらかという)接種しようと思う、と回答したに反して、「今後(継続的に摂取することになった場合)」では 69%が(どちらかという)接種しようと思うと考えており、ワクチン接種の継続について一定の理解がみられた。

概要図表 1-1 と概要図表 2-1 から、ワクチンの接種希望者の割合が少ないのではないかという見方があることに対しては、ワクチンというものが重要であっても不安全であるという意見が日本では強く、2016 年の 67 か国のサーベイ論文[1]では 1 位のフランス、2 位のボスニアヘルツェゴビナに次いで 3 位が日本と極めて高くなっている。

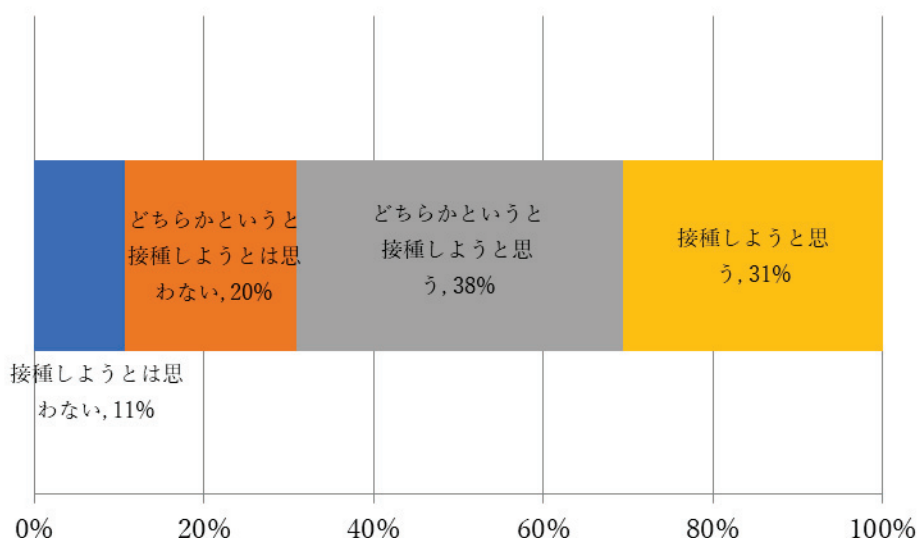
また、経済産業研究所(RIETI)の研究グループが行った先行研究[2]では 2021 年 4 月 23 日～5 月 6 日にインターネット調査を行っており、接種しなかった人々を分母として、それぞれの回答を分子とすると、「接種するつもり」は 60.9%で、「まだ決めていない」が 30.1%、「接種しないつもり」が 9.0%だった。この RIETI の研究結果は、本稿の概要図表 1-1 及び概要図表 1-2 と矛盾しないと考えられる。

さらに、国立精神・神経医療研究センター(NCNP)が行った先行研究[3]では 2021 年 2 月に 2 万 6000

人を対象にインターネット調査を行い、接種したくないと答えた人は、15～39歳の女性で15.6%、同男性で14.2%と全年齢平均の11.3%より高かったことが分かった。NCNPの調査は、本稿の概要図表1-1及び概要図表1-2と比べ、全体的に数値が低めであるが、NCNPの調査の回答選択肢が肯定否定で対照とはなっていない（ワクチン接種希望者（「接種したい」「様子を見てから接種したい」）、ワクチン忌避者（「接種したくない」））点に留意する必要がある。



概要図表 1-1 現在、新型コロナウイルス感染症のワクチンの接種が進んでいますが、今回の接種に関し、あなたは接種した、または接種しようと思いませんか

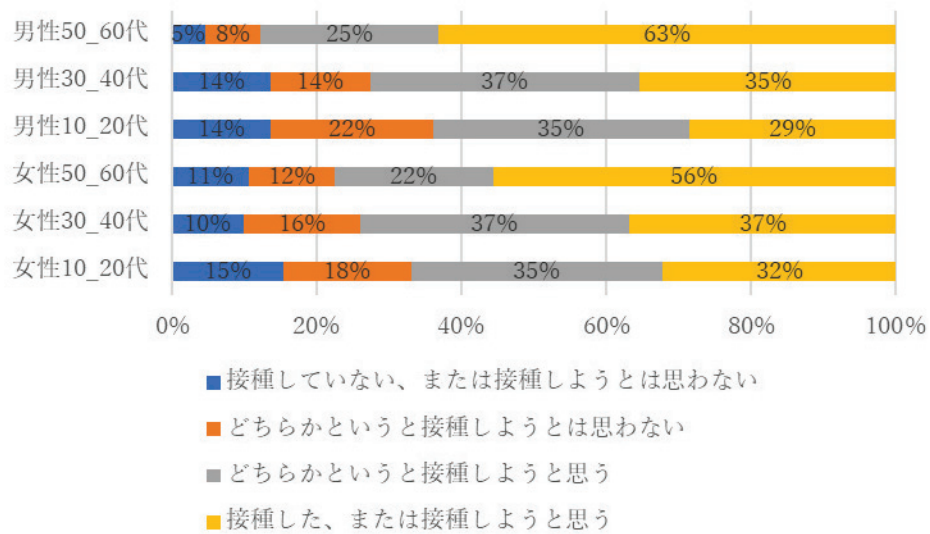


概要図表 2-1 今後、新型コロナウイルス感染症のワクチンを定期的に接種することになった場合、将来にわたり継続的に、あなたは接種しようと思いませんか

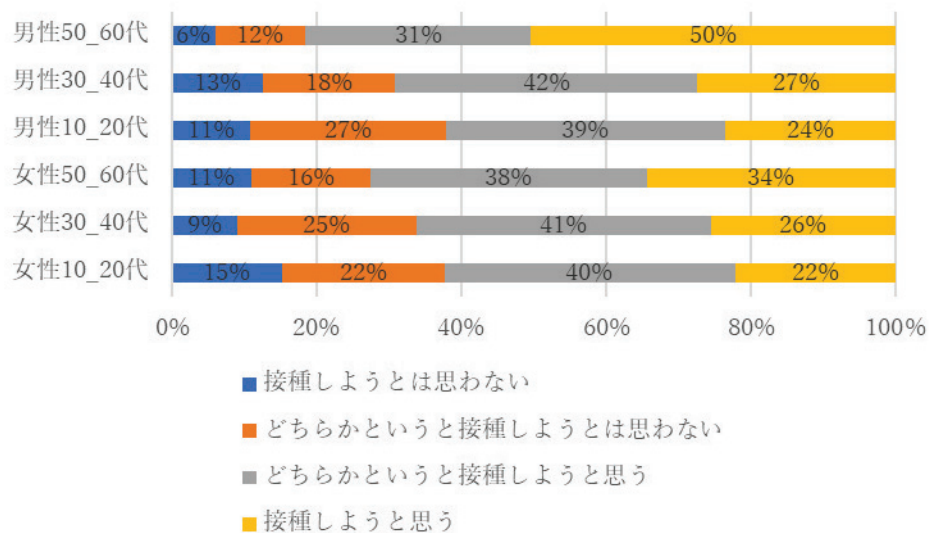
他方、ニッセイ基礎研究所^[4]は、全国の20～69歳の男女（調査会社のモニタ）を対象とするWEB調査を2021年3月26日～29日に実施し、2,070人から回答を得た「第4回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」を実施した。この調査では、およそ半数の51.2%がしばらく様子を見ることを希望しており、「あまり接種したくない（15.9%）」「絶対に接種したくない（7.5%）」などのすぐには接種を希望していない人は23.4%と高い数値となっていた。

加えて、東京感染症対策センター（東京 iCDC）専門家ボードのリスクコミュニケーションチーム^[5]では、7月16、17日に、都内在住の20～70代の男女1千人からインターネットで回答を得た。その結果、「おそらく接種しない」と「絶対に接種しない」を合わせた割合は、20代男女でそれぞれ19.0%、18.8%。30代男女は16.7%と19.1%。50代男性（12.1%）や40代女性（10.5%）など、若年層では40代以上の年代と比べてワクチンに否定的な傾向が見

られた。

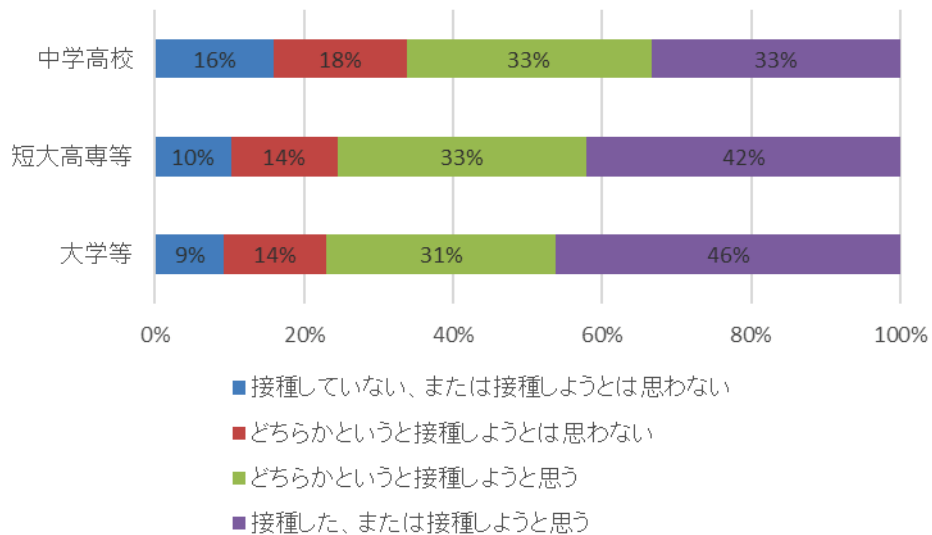


概要図表 1-2 現在、新型コロナウイルス感染症のワクチンの接種が進んでいますが、今回の接種に関し、あなたは接種した、または接種しようと思いますか（性別×年代別）

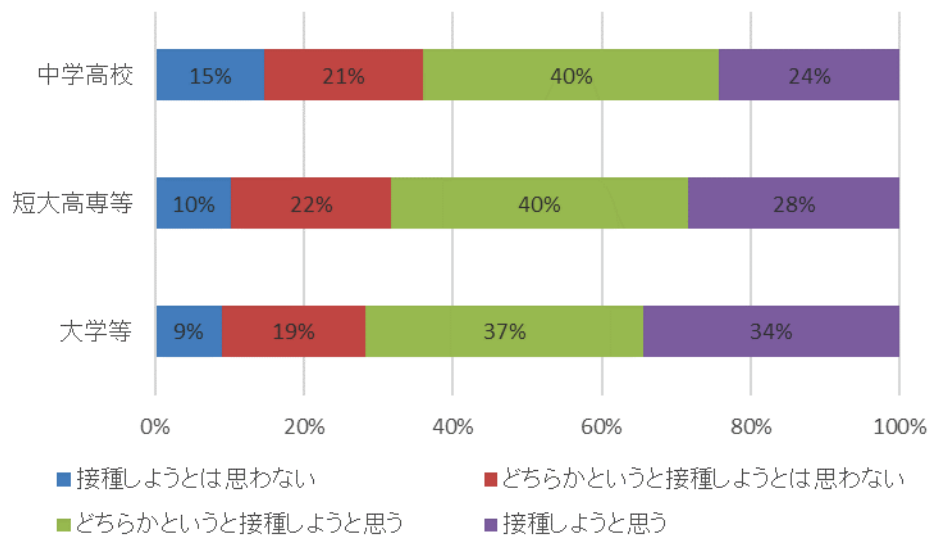


概要図表 2-2 今後、新型コロナウイルス感染症のワクチンを定期的に接種することになった場合、将来にわたり継続的に、あなたは接種しようと思いますか（性別×年代別）

回答を性別と年代別で集計したところ、概要図表 1-2 と概要図表 2-2 の結果が得られた。ここからどの年齢も総じて接種意向が高いことが分かった。



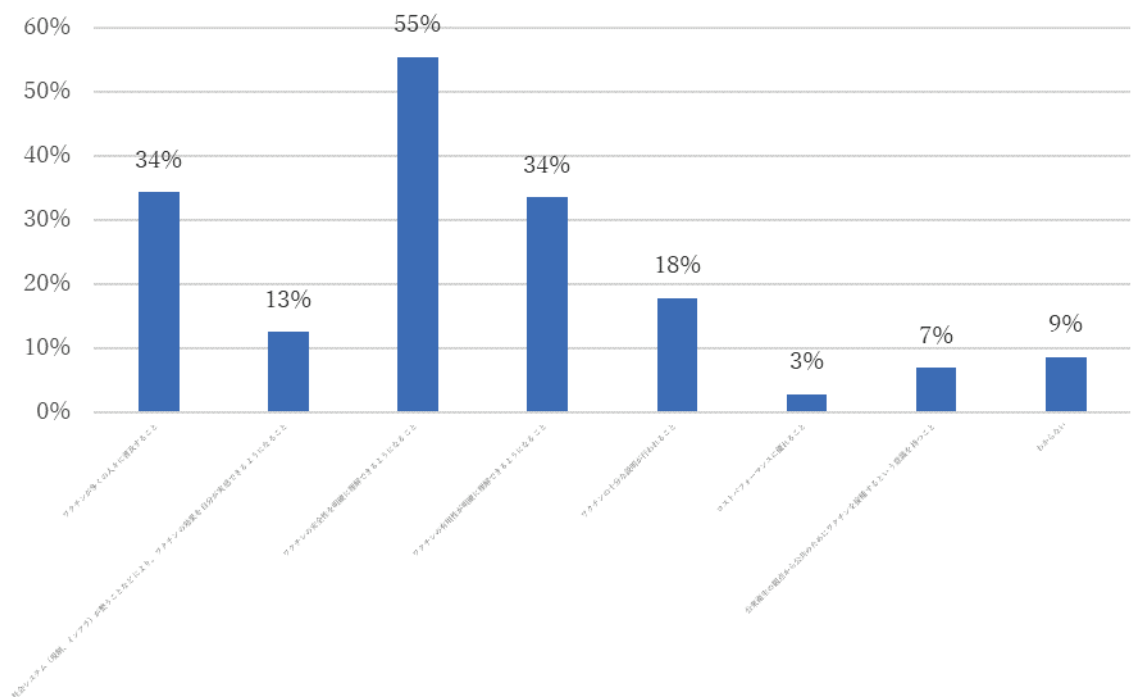
概要図表 1-3 現在、新型コロナウイルス感染症のワクチンの接種が進んでいますが、今回の接種に関し、あなたは接種した、または接種しようと思いますか（最終学歴別）



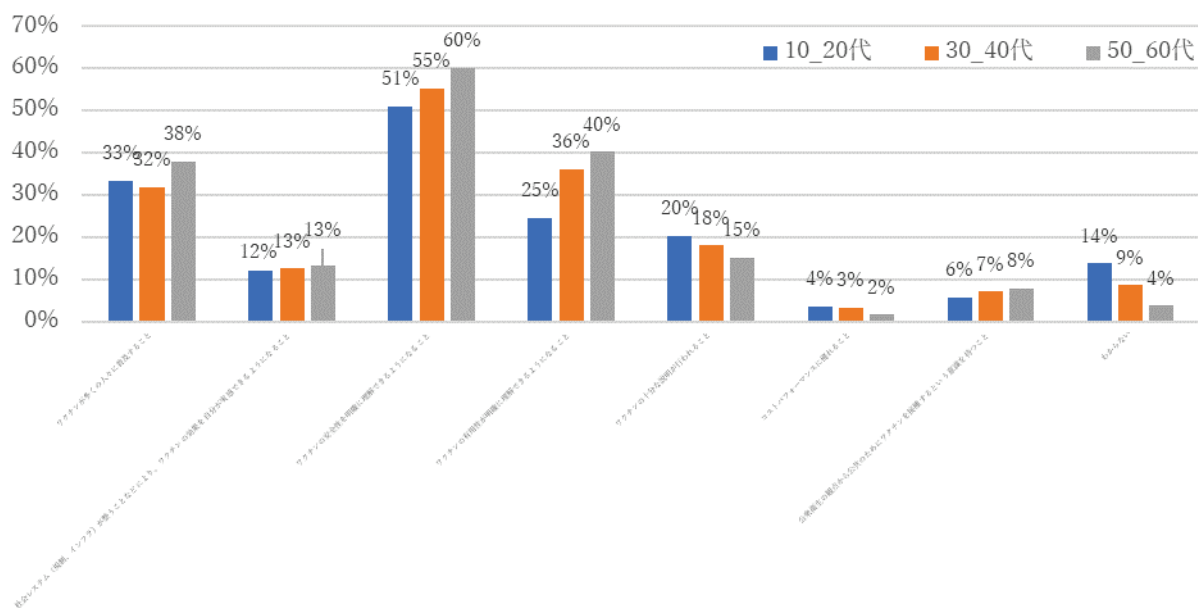
概要図表 2-3 今後、新型コロナウイルス感染症のワクチンを定期的に接種することになった場合、将来にわたり継続的に、あなたは接種しようと思いますか（最終学歴別）

最終学歴別の集計では概要図表 1-3 及び概要図表 2-3 となり、中学・高校卒業者より大卒等の方がワクチンを接種しようと思っていることが分かった。概要図表 1-1 と概要図表 1-2 の結果も合わせて考察されることとしては、若年層にわかりやすく情報を提供するとともに、自ら考える力を涵養することで、強制ではなく、自己判断できるようにしていくことが重要と考えられる。

加えて、あなたが新型コロナウイルス感染症のワクチンの利用を受け入れるためには、どのようなことが必要と考えるか訊いたところ（概要図表 3-1）、ワクチンの安全性を明確に理解できるようになることが 55%と過半数を占めている。また、ワクチンが多くの人々に普及すること、ワクチンの有用性が明確に理解できるようになること（ともに 34%）がそれに次いでいる。逆に、コストパフォーマンスに優れること（3%）、公衆衛生の観点から公共のためにワクチンを接種するという意識を持つこと（7%）は低くなっている。「ワクチンが有効であり、かつ接種を受けることについての選択の自由が本人または保護者にあるならば、多少の副反応があっても社会にとっての有用性は大きい」という論理は世界的には受け入れられているが、わが国においては事実上認められていない。^[6]



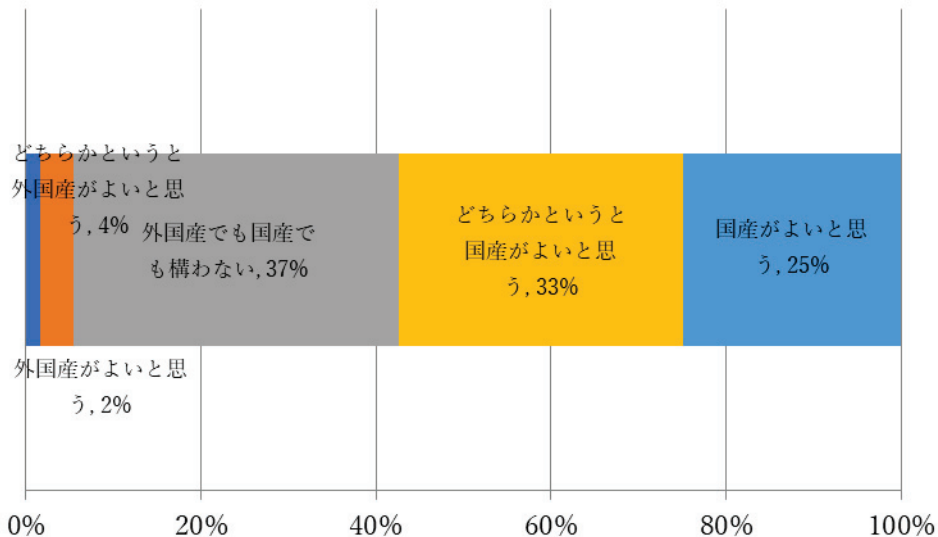
概要図表 3-1 あなたが新型コロナウイルス感染症のワクチンの利用を受け入れるためには、どのようなことが必要と考えますか



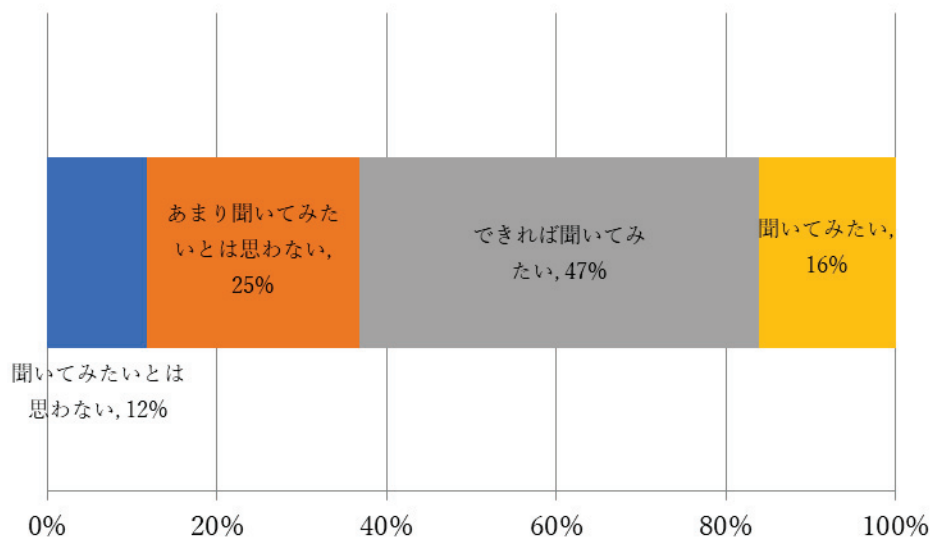
概要図表 3-2 あなたが新型コロナウイルス感染症のワクチンの利用を受け入れるためには、どのようなことが必要と考えますか（年代別）

また、回答を年代別に整理すると概要図表 3-2 となり、年代が高くなるにつれて、ワクチンの安全性に理解を示しており、ワクチンの有用性への理解も年代が高くなるにつれて高くなっていることが分かった。

また、将来接種したいワクチンとして、「外国産でも国産でも構わない」が 37%である一方、（どちらかというと）国産がよいと思う人は 58%と過半数を占めており（概要図表 4）、国産のワクチンへの期待が高まっている状況が明らかとなった。



概要図表 4 将来、あなたはどのような新型コロナウイルス感染症のワクチンを接種したいと思いますか



概要図表 5 あなたは、機会があれば、新型コロナウイルス感染症のワクチンに関して科学者や技術者の話を聞いてみたいと思いますか

機会があれば、新型コロナウイルス感染症のワクチンに関して科学者や技術者の話を聞いてみたいと思うかは、「(できれば)聞いてみたい」が 63%と過半数を占め、昨今 TV や新聞で専門家の意見等が紹介されているが、さらなる情報提供が求められていることが分かった。

参考文献

- [1] The State of Vaccine Confidence 2016: Global Insights Through a 67-Country Survey, Heidi J. Larson, PhD, Alexandre de Figueiredo, MS, Zhao Xiaohong, BS, William S. Schulz, MS, Pierre Verger, PhD, Iain G. Johnston, PhD, Alex R. Cook, PhD, Nick S. Jones, PhD, EBioMedicine 12 (2016) 295–301.
- [2] どういう人々が新型コロナウイルスのワクチンを接種したがるのか：インターネット調査における検証（改訂版），関沢 洋一，経済産業研究所，橋本 空，ユナイテッド・ヘルスコミュニケーション株式会社，越智 小枝，東京慈恵会医科大学，宗 未来，東京歯科大学，傳田 健三，平松記念病院，RIETI Discussion Paper Series 21-J-026.
- [3] 新型コロナウイルスワクチン忌避者は 1 割。忌避者の年齢・性別差、理由と関連する要因を明らかに：日本初全国大規模インターネット調査より，国立精神・神経医療研究センター (NCNP)，2021 年 6 月 25 日，<https://www.ncnp.go.jp/topics/2021/20210625p.html>
- [4] 新型コロナワクチンをすぐには接種しない人の理由と特徴－「安全性への不安」「順番待ち・様子見」「面倒」「ワクチン不要」，基礎研 R E P O R T（冊子版）8 月号[vol.293]，保険研究部 准主任研究員・ヘルスケアリサーチセンター兼任 村松 容子，「第 4 回新型コロナウイルスによる暮らしの変化に関する調査」，<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=68413?site=nli>
- [5] 09 新型コロナウイルス感染症対策(ワクチン)に関する意識調査，（第 60 回）東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議資料（令和 3 年 8 月 26 日），<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/taisaku/saigai/1013388/1014827.html>
- [6] 特別寄稿，予防接種：公衆衛生事業としての意義とわが国の課題，田中 政宏，大阪府立成人病センターがん予防情報センター，医療経済研究 Vol.22 No.1 2010, pp.5-29.